

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

野村信託銀行株式会社（証券コード：ー）

【据置】

長期発行体格付	AA-
格付の見通し	安定的
短期発行体格付	J-1+

■格付事由

- 野村グループの信託業務、銀行業務を担う信託銀行。野村ホールディングス（野村 HD）の完全子会社であるうえ、役員には野村グループの出身者が多く、グループの関与度は強い。アセットマネジメントビジネスに不可欠な機能を有するほか、預貸金業務や相続関連業務においてもグループ各社と連携している。また、グループが 25 年 4 月に新設したバンキング部門において、当社がビジネスの中核を担う。ローン・受託関連ビジネスを拡充し、中長期的にグループの中核ビジネスの 1 つへと成長させる方針を掲げており、経営的重要度は高い。野村 HD より必要に応じて資本増強がなされている実績も踏まえ、発行体格付はグループ信用力と同等としている。
- 信託業務において一定の事業基盤を確立している。信託業務の収益の柱は投資信託などの財産管理業務で、グループの証券ビジネスと密接に関連している。信託財産残高は 25 年 9 月末 52 兆円。その大宗を占める投資信託の受託残高シェアは業界 3 位を維持している。投資信託を中心に信託財産残高の増加ペースが速まっており、とりわけ 25/3 期は株式市場の活況を背景に増加率は大きく高まった。銀行業務においては、富裕層向け貸出や、野村証券を代理店としてインターネットバンキングを通じた有価証券担保貸出の増強に注力しており、貸出金残高は着実に増加している。今後、野村証券との間で預金スイープサービスを開始する予定である。野村証券に滞留している資金を取り込み、担保資産の対象の拡充などにより貸出金残高を大きく拡大させる方針を掲げており、その動向に注目していく。
- 収益力は改善が持続しており、25/3 期のコア業務純益は前期比 1 割増となった。信託報酬の伸長に加え、金利上昇を背景とした貸出金利息や預け金利息の増加で、資金調達費用や経費の増加を吸収した。25 年 5 月の勘定系システムの更改等によりシステム関連を中心に経費が大きく増加しており、26/3 期のコア業務純益は弱含む可能性がある。もっとも、投資信託の受託残高や富裕層向け貸出は堅調に推移している。預金スイープにより増加する資金量の見合いで、運用資産残高が拡大する可能性も考慮すれば、収益力は中長期的に強化される方向にあると JCR はみている。
- 資産の質は良好である。25 年 9 月末において金融再生法開示債権は発生していない。貸出資産は大口先への与信集中度が高いものの、株式などの担保により十分な保全が効いており、多額の与信費用が発生する可能性は低い。有価証券運用では、新規投資の中心は国債、地方債であるうえ、金利リスクは一定の範囲内でコントロールしている。コア資本比率は 25 年 9 月末 15%弱と高く、資本充実度も良好である。自己資本はその他有価証券評価損を勘案してもリスクバッファーとして十分な厚みがある。

（担当）南澤 輝・志村 直樹

■格付対象

発行体：野村信託銀行株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA-	安定的
対象	格付	
短期発行体格付	J-1+	

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2025 年 12 月 19 日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：南澤 輝
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014 年 1 月 6 日) として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2024 年 10 月 1 日)、「銀行等」(2021 年 10 月 1 日)、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」(2022 年 9 月 1 日) として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 野村信託銀行株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル